

科目名称	人体の構造と機能 I (人体の成り立ち)	学年学期	単位数	時間数
		第 1 学年前期	1	30
担当教員	田中 潤也	授業に関わる 実務経験	<input type="checkbox"/> 有 () <input checked="" type="checkbox"/> 無	

【1】授業概要

解剖生理学の理解が疾患の理解につながる重要性を認識する。人体の部位、方向と位置、器官系全体を大まかに把握する。高校の化学・生物学の知識をもとに、生体の構成物質、物質・エネルギー代謝、細胞、組織を理解する。

【2】学習目標

1. 人体の部位、方向、位置を示す用語が理解できる。
2. 12 の器官系を簡単に説明できる。
3. 内臓の配置を図示できる。
4. 細胞内小器官を図示できる。
5. 人体を構成する化学物質を説明できる。
6. エネルギーの生成と ATP、物質代謝について理解できる。
7. 遺伝子、染色体、細胞の分化を説明できる。
8. 4 つの基本組織について理解する。
9. 解剖生理学の知識を使って、いくつかの疾患の成り立ちを説明できる。

【3】第 1 看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	解剖生理学とは 人体の区分と方向	講義
2		
3	12 の器官系の概説 (1)	講義
4		
5	12 の器官系の概説 (2)	講義
6		
7	細胞の構造	講義
8		
9	人体を構成する物質	講義
10		
11	エネルギー・物質代謝	講義
12		
13	組織学	講義
14		
15	試験・まとめ	

【5】評価方法

筆記試験 70%とレポート 30%(5 月の連休前にレポートを課す)の合計を合計して、評価する。
5 月の連休前にレポートを課し、最終評価に 30%程度反映させる。

【6】教科書

坂井 建雄:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学(第 11 版) 医学書院 2025(電子版)

【7】参考書

特に指定しないが、高校化学や生物の教科書を適宜復習してほしい。

【8】受講生へのメッセージ

人体の成り立ちと疾患との関わりを重視した授業を行います。毎回小テスト(小テストは最終評価に反映しない)を行い
次回の講義で復習します。